

「至誠小」採決先送り

9.17

「審議尽くせず」20日に

倉吉市議会委

成徳、灘手小を統合して
 来年4月に開校する新小学
 校名を「至誠小」とする条
 例改正案について、審査を
 行っている倉吉市議会教育
 福祉常任委員会(鳥羽昌明
 委員長)は16日、予定して
 いた採決を予備日の20日に
 先送りした。委員の1人が
 「審議が尽くせなかった」
 として熟考の期間を求め、
 残る委員全員が了承した。
 新校名は両校区の住民で
 つくる統合準備委員会が公
 募し、「至誠」「打吹」の
 2案から協議して決定。そ
 の後、市民から決定や選考
 過程を疑問視する声が相次
 ぎ、両校区の住民から校名
 の再考を求める陳情などが
 市議会に提出された。
 この日の採決前に同委は
 非公開の審議を開き、委員
 会は予定より1時間遅れて
 再開。冒頭、大津昌克委員
 が「審議が尽くせなかった
 議案があるので、本委員会
 に付託された議案の全ては
 来週の予備日に採決した
 い」と提案し、了承した。

鳥羽委員長は取材に対し
 「各委員が慎重に判断する
 期間が必要」と先送りの理
 由を述べた。

同委で「至誠」に反対の
 立場をとる大津委員は「不
 透明な選考過程の説明がな
 いと可決はできない」と主
 張。賛成の立場の山根健資
 委員は「否決になれば半年
 後の開校に向けた統合準備
 に多大な影響が及ぶ」と話
 している。採決は20日午後
 2時から行われる。

(本高屋修)

「至誠小」継続審査に

倉吉市議会 市教委に説明要求

倉吉市議会の教育福祉常

任委員会(鳥羽昌明委員長)

は20日、倉吉市の成徳、灘

手小を統合して来年4月に

開校する新小学校の校名を

「至誠小」とする条例改正

案を継続審査とした。閉会

中に再度審査して可否を出

し、10月中に臨時議会を招

集する見込み。

常任委は16日の採決を先

送りしてこの日開いたが、

今会期中の可否は困難と判

断した。採決前、佐藤博英

委員が「小学校の校名につ

いて市民からさまざまな意

見が出ている。委員会では

審議は尽くしていない」と

動議を出し、委員長を除い

た4人中3人が賛成した。

22日の議会最終日に委員長

報告を行う。

付帯意見も協議され、市

教委に対して「市民に議案

の説明を果たすべきだ」見

結果になったとしても準備

童に影響がないよう最大限

の配慮を「などの意見が拳

がった。「どのような採決

の結果になったとしても準備

子どもたちに影響ない着地点を

議案審査を付託された教育福祉常任委は

難しい判断を迫られた。成徳、灘手両地区

から校名の再考を求める陳情、意見書が出

されている中で、採決されれば市民の間に

しこりを残し、地域の分断にもつながりかねない。

このため議会は「継続審査」を選択した格好だ。校

名を選考する委員会での議論や過程が当該地域の住

民に共有されていなかったことが、今の状況を生み

出したのではないか。学校統合は市教委の「仕事」

だが、条例提案者は広田一恭市長。条例が否決され

れば行政手腕や指導力が問われることにもなる。統

合小学校は来年4月開校が決まっている。子どもた

ちに影響がない着地点を見いだすことが必要だ。

(本高屋)

委のメンバーが矢面に立た
されることはないよう、市
教委は責任を持つべきだ」
との意見もあった。

関連して審査していた校
名の再考を求める陳情は全
会一致で趣旨採択とした。

(本高屋修)

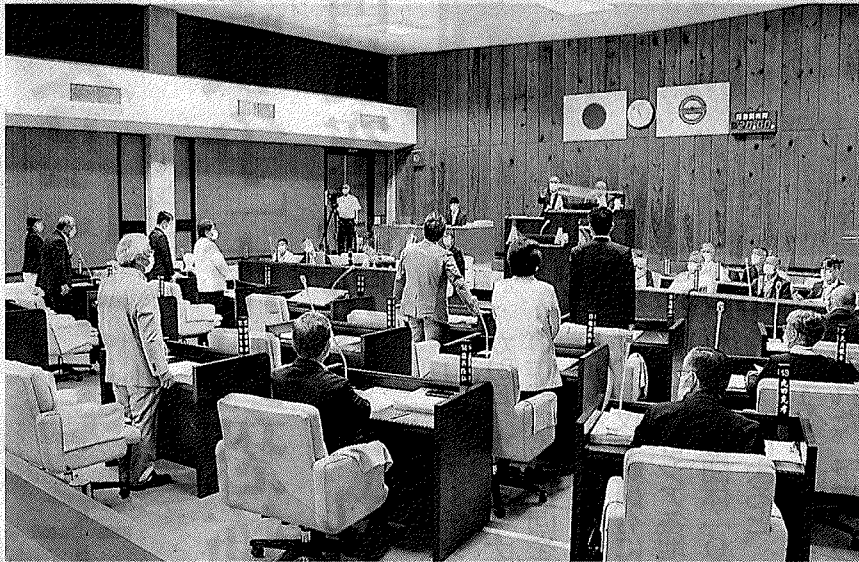


「至誠小」条例 急転可決

市長の取り下げ請求不承認

倉吉市議会

9.23



校名を「至誠小」とする条例案に賛成して起立する議員=22日、鳥取県倉吉市議会議場

鳥取県倉吉市議会は9月定例会最終日の22日、議案採決を行い、同市の成徳、灘手の小学校2校を統合して「至誠小」を設置する条例の一部改正案を賛成多数で可決した。「選考過程が不透明」として再考を求め、市民の声も議会に寄せられていたが、統合準備委員会の判断を尊重し、教育現場への配慮を優先した。一方、統合準備委の選考過程の詳細を説明するよう、市

教委に注文も付いた。

(20面に関連記事)

本会議冒頭、広田一恭市長は、市民からの意見や指摘を踏まえ、再度、統合準備委への確認が必要だとし、異例の条例取り下げを求める請求を行ったが、賛成少数で不承認に。「継続審査」とした教育福祉常任委員会(鳥羽昌明委員長)の委員長報告が否決されると、同常任委は再審議して可決に転じ、再度本会議で委員長報告を採決した結果、賛成9、反対4、退席2、欠席1となり、条例改正案は可決された。

討論では、条例案賛成に回った議員からも「選考過程に市民の中に疑問や不満があり、市教委が責任を持って説明すべきだ」との意見が出た。広田市長は「教育長ともよく話をして説明に努めていきたい」と話した。

(本高屋修)

執行部も議会も迷走

9.23

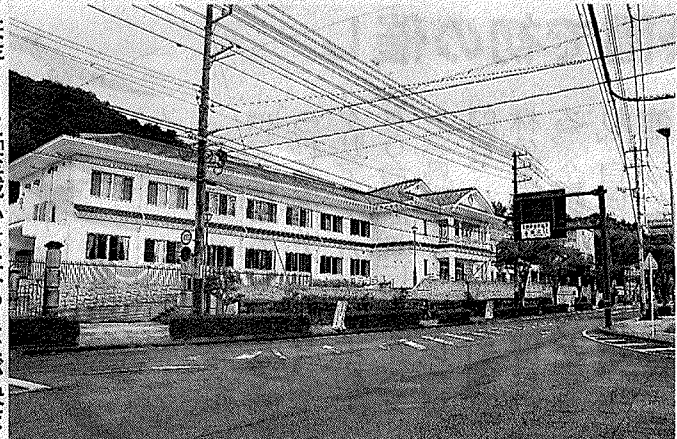
ドタバタ劇の末に可決

倉吉「至誠小」問題

倉吉市の成徳、灘手2小学校を統合して来年4月に新設する「至誠小」を巡る問題は、9月定例会議最終日の22日に急展開を見せた。広田一恭市長は条例改正案取り下げを議会に求める異例の対応を見せるなど、市執行部の迷走ぶりも露呈。最終的な本会議採決は退席議員も出る中で賛成多数で可決され、紆余曲折を経て新校名は「至誠」に決まった。

(本高屋修)

本会議前の議会運営委員は「と不快感を示す議員もおり、波乱含みの展開を表明した広田市長。しかして本会議を迎える」とし「本会議で討論せず、最終日になって取り下げると開会直後、広田市長は市認に。採決では、「継続審査の結論は一転して「可決」として取り下げを申し出るも不承れ、改めて審議した同常任委員は「再度説明する方向で考えている」と述べた。



来年4月に「至誠小」となることが決まった現在の成徳小学校舎。倉吉市仲ノ町

決」。仕切り直しの本会議採決でも可決した。同条例案を巡る議場での討論では「なぜ結論を急ぐのか」(大津昌克議員)、「公募条件に(新校名は)『得票数では決めない』と明記してある」(鳥飼幹男議員)などと賛成、反対双方の議員が口角泡飛ばす議論にも発展した。

新校名が「至誠」に決まったことで、市教委は新しい校章と校歌の制作作業を本格化する。議会に求められた校名選定過程の透明化について、小椋博幸教育長は「再度説明する方向で考えている」と述べた。

【解説】成徳、灘手小を統合の内訳で「うつつぎ・打吹」が考の方法や手順は法令等に縛られて「至誠小」とする条例は、150件に対し、「至誠」は1れるものではない。しかし、当「継続審査」とする常任委員長。これが公になったのを契機、該地域住民のみならず市民に報告を覆して急転直下の本会議に、成徳、灘手両地区から再考の心高い新校名の選考過程が、可決に至った。新校名を巡ることを求める声が一気に噴出。新校十分に市民コンセンサス、情報れまでの議会内の論議では、市名を定める議案を提出した広田 共有を得ないまま進んできたこと民からの公募で多数を占めた「うつつぎ」。

市教委は、新校名の公募の際に「名称数の多い少ないでは決めない」という前提条件を設けていた。しかし、応募341件、問機関」という位置付けで、選が求められる。(本高屋修)

市教委は主体的役割を

市教委は、新校名の公募の際に「名称数の多い少ないでは決めない」という前提条件を設けていた。しかし、応募341件、問機関」という位置付けで、選が求められる。(本高屋修)

新校名を検討してきた統合準備委員には当該地域住民、市民が納得できる説明を真摯に行うこと

市教委は、新校名の公募の際に「名称数の多い少ないでは決めない」という前提条件を設けていた。しかし、応募341件、問機関」という位置付けで、選が求められる。(本高屋修)

海潮音

2022.10.2

新しい鳥取県立美術館に展示

されるアンディ・ウォーホルの「ブリロの箱」を眞教委が約3億円で購入し波紋を広げた。作品の善しあしというより、その唐突感に県民は驚いた。倉吉市

の「至誠小」もそうだ◆来春の統合を目指す成徳小と灘手小の新校名。統合準備委員会で一本化されたが、地元から再考を求める陳情や意見書が出され不満が噴出。「知らなかった」というのが実際のところだろつ◆校名や町名の選定は統合や合併を崩しかねない。その選考過程は住民に十分に情報公開され、コンセンサスを得ないとつまづかない。2004年に合併した羽合、東郷、泊の新町名を決める際も前途多難な様相を呈していた◆3町村の住民を対象に公募した新町名は1653件(1039種類)。その中から検討委が20点を選び、合併協議会で5点(湖周、東ほつき、伯耆、美郷、湯梨浜)に。最後は3町村全世帯にアンケートを取り、判断を住民に委ねた◆会議は全てオープンにされていたが住民は「行政主導で話が進んでいる」と感じていた。町名や学校名は合併の肝。公開すれば圧力がかかり、公平な判断ができないという見方もあるが、情報をつまびらかにすることが肝要ではなかったか。議論が巻き起こってこそ理解も深まる。(右)

私の視点

来年、倉吉の二つの学校が統合して新しい小学校ができます。入学を前に、児童はじめ

(二)両親、祖父母の方々、皆さんが楽しみにしている

らっしゃることでしょう。でも、ここにきて校名のごとく問題が

起きています。

一度決まった校名を、たとえ

変更したとしても後味の悪さが残るの否めません。人それぞれ

の考えがある以上、全員が賛成というのは無理です。反対される方のお気持ちもおありでしょうが、もうすでに半年後には開校を控えています。ここは、

産院でけんかした苦い思い出があります。ですが、38年たった今、娘にはその名前以外には考えられないほどなじんでいます。今は亡き夫に申し訳ない

か。「誠を尽くせば、それに動かされないものはない」。この小学校を卒業する子どもたちが胸を張って言える校名だと思います。

「至誠小」の名前について

A B

新しい学校を建てていくという広い心で応援しようではありませんか。

思いでいっぱいです。

私がかつて娘を出産したとき、夫が決めた名前に不満があった橋田邦彦氏の座右の銘だと

「至誠」。素晴らしい名前です。かつて倉吉が輩出した偉大な教育者、そして文部大臣であった

方々、どうか子どもたちの素晴らしい船出となる小学校を拍手で祝ってあげませんか？一市民として切なる思いでペンを執りました。

橋本 和枝（倉吉市下大江、64歳）

私の視点

倉吉市小 備委員会になぜ明倫小校
 学校適正配 区からも委員が選出され
 置計画に基 なかつたのでしょうか。
 づき成徳、 近い将来、明倫も統合す
 明倫、灘手」 る時は、再び校名を募集
 の統合。今 し選定するのでしょうか。

しました。教育長は委員
 が責任を持って決定され
 問題ないし、選考過程も
 公表しないと答弁されて
 います。
 今まで熱心に小規模校
 の意見、全く承知できま
 せん。

回は、成徳と灘手でスタ
 ートし、来年4月に開校
 します。新校名は近い将
 来、明倫と統合すること
 も含めて、既存の成徳、

委員会日より(6月)

正配置統合を語られてい

今、灘手小では「協力

「至誠小」選定に疑問

最後の運動会」のスロー
 ーガンのもと頑張っていま

明倫、灘手の漢字、読み
 方は使用しない条件で募
 集され、私は、市のシン
 ボル打吹山の麓にある成
 徳・明倫地区とも理解さ
 れるであろう「打吹○○
 小学校」と応募しました。

に応募総数341件(1
 19案)、最終的に「打
 吹」「至誠」に絞り、至
 誠に決定したとありま
 す。そしてこのたびの新
 校に、児童が元氣よく登
 校することを願うばかり
 です。

高田 博正(倉吉市尾

聞で初めて、打吹、うつ
 ぶきが150件、至誠1
 多数と聞きます。準備委
 員会の皆さんも本當にこ

原、74歳)

疑問の一つに、統合準

件と知り、大変びっくり

原、74歳)

私の視点

倉吉市の成徳小と灘手小学校を統合し、さらに今後明倫小も統合する予定の新しい小学校の名前が「至誠小学校」と決定された。統合準備委員

新小学校校名再考を求める

深田 哲士 (倉吉市駄経寺町、75歳)

会がこの名称を選定したと聞いた時には心底驚いた。至誠という校名の選定には、明治時代に創立された成徳小や明倫小の校名と同じ「教育的」「道徳的」配慮が強く感じられる。まさかこんな古い感覚の名称が採択されるとは夢にも思わなかった。

教育委員会に問い合わせるに驚いた。有効応募総数341件のうち実に150件が「打吹」「うつつぎ」であったのに対して、「至誠」は1件であったという。教育委員会は、公募の趣旨は多様な意見を吸い上げることであ

「うつつぎ」という言葉は耳になじんだ親しみのある言葉である。いかに多数決ではないといっても、応募のうち圧倒的多数の市民が提案したこの親しみのある優しい校名を排して、わずか1人が提案した古い古い感覚の校名を採用するといふ結論にはどうしても納得がいかない。

統合準備委員会のこの結論を倉吉市議会も追認してしま

り、応募数の多少は選考基準にしないこととなっていたという。私も多数決が必ずしもいいとは思わない。しかしこれはあんまりである。打吹山は倉吉のシンボルとされる城山で、新小学校(現成徳小)はまさにその麓に位置する。市民の多くにとって

倉吉市の小学校の統合を巡り、新校名の選考過程が物議を醸した。市民応募341件中、応募が150件の校名「打吹」ではなく、応募1件の校名「至誠」が候補に決定し、選考過程に疑問が投げかけられた。個人的には、打吹山に

り下げは否決され、常任委員長の報告の「継続審査」の是非が諮られたが、これも否決。今回の「ゴタゴタを生んだのではないか。議会も拙速な会期中の議決ではなく、継続審査や閉会中審査にすべきでは

り下げは否決され、常任委員長の報告の「継続審査」の是非が諮られたが、これも否決。今回の「ゴタゴタを生んだのではないか。議会も拙速な会期中の議決ではなく、継続審査や閉会中審査にすべきでは

り下げは否決され、常任委員長の報告の「継続審査」の是非が諮られたが、これも否決。今回の「ゴタゴタを生んだのではないか。議会も拙速な会期中の議決ではなく、継続審査や閉会中審査にすべきでは

説明を欠いた新小学校校名

足羽 佑太 (倉吉市新田、35歳)

抱かれ、打吹公園があるあのエリアは、「打吹」の名前が似合うように感じていた。9月市議会最終日には、市長が議案の取り下げを求める異例の事態に。理由として「選定過程について、議員や市民からさまざまな意見がある」

めた市長は「しっかりと協議して『至誠』にいったん決まっ

ていることに対しては、尊重したいという思いでした。来年4月のスタートに向けてしっかり取り組んでいきたい」と

なうなせ取り下げを求めたのか。そもそも地域に根づく小

ウォーホルの「ブリロの箱」5点を、県立美術館への集客効果が見込めるとして、約3億円で購入した。県教委は、大量生産、大量消費社会を象徴。美術における価値観の世界的な変化を肌で感じることで

「教育的意義がある」と説明するが、この「コロナ禍で県民生活が苦しい中、大きな出費をすることに理解が得られるのか。県民の価値観を肌で感じての購入なのか。こちら

も、説明不足なのではないか。

も、説明不足なのではないか。

も、説明不足なのではないか。

も、説明不足なのではないか。

も、説明不足なのではないか。

も、説明不足なのではないか。